

平成21年度病害虫発生予報第8号(11月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

青枯病(ピーマン・トウガラシ)

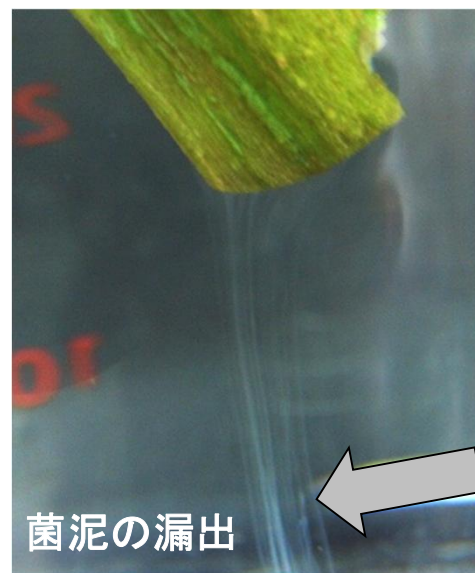
学名 : *Ralstonia solanacearum*



萎ちようした罹病株



褐変した維管束部



菌泥の漏出

生態と被害

日中に先端部の茎葉が萎ちようし始め、朝夕や曇雨天日には回復するが、しだいに株全体が萎ちようし、進展すると青枯となる。地際部の茎を切断すると、維管束部が褐変し、切り口から乳白色の粘液(菌泥)を出す。切断した茎を水に浸すと、切断部から菌泥が乳白色のすじ状となって出てくることで容易に診断できる。病原細菌は土壌中に残り伝染源となり、土壌線虫による根の被害痕や管理作業などによる損傷部から侵入する。宿主範囲が広く、トマト・ナス・パレイショなどのナス科作物やウリ科作物、キクなどに感染する。